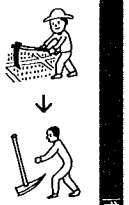
以

四年
画数 5
筆順 ㇐ 𠂉 𠂉 以 以
オン イ
クン

成り立ち



お百しょうさんが畑でつかう〝すき〟や〝くわ〟の形を表した〝レ〟と、人の形を表した〝人〟とを組み合わせて作った字で、「お百しょうさんがくわを〝もちいる〟」ことを表した字です。〝もちいる〟という意味につかいます。〝以心伝心〟は、「心をもちいて心に伝える」という意味のことばです。それは、ことばをもちいないで、「心から心にじかに伝える」ことなので、「〇〇から」という意味につかわれるようになりました。

使い方

▽以前、よくかぜをひきましたが、今は、剣道をやっているせいか、とても丈夫です。
▽この試験で、九十点以上とった人は、一人もいません。

熟語例

▽以前（前。また、～から前、という意味で、つかいます。「六月一日以前に、プールを使用したことは、ありません」などというふうに、つかいます。㊋「以後」）
▽以上（～から上。また、いままで言って来たこと、という意味にも、つかいます。「以上で、報告をおわります」などというふうです。㊋「以下」）
▽以外（～のほか。そのほか。「いま呼んだ人以外は、あしたは、出席する必要はありません」などというふうに、つかいます。㊋「以内」）
▽以西（～から西。「関東以西は、雨になるでしょう」などというふうに、つかいます。もちろん、「以東」「以北」「以南」などのことばもあります。）

衣

四年
画数 6
筆順 丶 亠 ナ 𠂇 衣 衣
オン イ
クン ころも

成り立ち

着物の形を表した字で、〝着物〟という意味を表した字です。むかしは、〝着物〟のことを〝ころも〟といいました。

今では、〝ころも〟ということばはつかわれないで、〝もの〟ということばがつかわれますから、〝衣〟を〝きもの〟と読んでもいいわけですが、そう読まないわけは、〝きもの〟ということばは、〝着・物〟という、二つのことばで作られたことばだからです。

〔衣は〝上衣〟で、腰から下に着ける〝裳〟と一対になるので、これを〝衣裳〟と言った。〝裳〟の字が常用漢字に無いため、〝衣装〟と書かれる。〕

使い方

▽ある湖に、天女が舞いおりて、羽衣をぬぐと、水あそびをしました。それを見ていた若者が、羽衣を取ってかくしてしまいました。
▽衣服をきちんと整えると、気分がひきしまります。反対に、衣服がだらしないと、心までだらけてしまうものです。

熟語例

▽衣服（きもの。着る物のことです。「あしたの衣服を、きちんと用意してから寝る習慣です」などというふうに、つかいます。）
▽衣装（きもののことです。特に、舞台などで着る物を言うことがあります。）
▽更衣（きものを着がえること。「更衣室」といえば、ものを着がえるための部屋のことです。）
▽上衣（うわぎ。上に着るきもののことです。「暑いので、たいがいの人が上衣をぬいでいます」などというふうに、つかいます。）
▽白衣（白い色のきもの。よく、お医者さんや看護婦さんなどが着ています。）